

中国が改革開放の道を駆け出す九〇年代半ば以降になると、日本企業に勤務経験を持つ中国人が増えてくるようだ。新宿等、都内四カ所で中国語学校「ピーチャイニーズ」を経営する高登雪さん（七十二歳、黒竜江省哈尔滨市生まれ）が来日したのは九七年。上海外国語学校で英語とロシア語を学び、卒業後は上海のアパレル関係の国営企業に入った。中国の国営企業では、一定期間、新入社員を工場ラインで現場実習させるのが普通だが、「こんなことをしても、

日本の慣習への戸惑いと理解

意味がない」と、中国を出ることを決意。「ピザを取得しやすかったため、日本に行くことにした」。来日二年目に東京大学に入学。卒業後は日本の商社に入社し、アパレル関係の職場でフランスに海外出張する等、忙しい毎日を送っていた。



しかし、入社後一年半ほどで、退職した。「一番の理由は、日本企業の年功序列でした。権限を持ち、自分の能力を発揮するには、課長や部長等、一定のポストに就かなければならないが、入社年次の遅い人が早い人を追い越して昇進することは、日本企業では、ほとんどあり得ない」。

日本の企業文化や慣習を否定しているのではない。高さんの人生設計のベースが、日本企業の仕組みに適合しなかったただけだ。高さんは「日本企業が成功した理由の一つは、年功序列なのだろうと思います」と話す。



商社に勤務後、中国語学校を立ち上げた高登雪さん



中国語学校を立ち上げた高登雪さん

「日本企業は年功序列で、自分の能力を発揮するには、課長や部長等、一定のポストに就かなければならないが、入社年次の遅い人が早い人を追い越して昇進することは、日本企業では、ほとんどあり得ない」。

高さんは「日本企業は年功序列で、自分の能力を発揮するには、課長や部長等、一定のポストに就かなければならないが、入社年次の遅い人が早い人を追い越して昇進することは、日本企業では、ほとんどあり得ない」。

高さんは「日本企業は年功序列で、自分の能力を発揮するには、課長や部長等、一定のポストに就かなければならないが、入社年次の遅い人が早い人を追い越して昇進することは、日本企業では、ほとんどあり得ない」。